



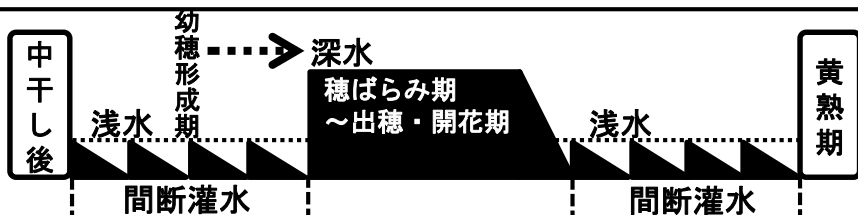
- 九州北部地方では、今後1か月の気温は平年並～低い、降水量は平年並～少ない、日照時間は平年並～多いと予想されています。
- 早期の梅雨入りにより、例年よりも生育が遅れているほ場が見られます。生育状況をよく確認し適切にほ場の管理をしてください。
- トビイロウンカの飛来が5月中旬に福岡県や佐賀県、大阪府などで確認されています。昨年よりも早い時期から飛来しているため、基幹防除を徹底し、いつでも追加防除できる準備をしましょう。

1. 出穂期までの水管理

- 中干し後に水を溜めたままでは再び土中でガスが発生し、水稻の生育が阻害されます。中干しによる水稻の健全化を持続させるため、穂ばらみ期までは間断灌水を徹底しましょう。
- 水稻は、穂ばらみ期から出穂・開花期に最も水を必要とするため、深水湛水しましょう。

幼穂形成期～出穂・開花期の水管理

- ①中干し後～穂ばらみ期は間断灌水
- ②穂ばらみ期～出穂・開花期の1週間～10日は水を切らさない
- ③開花後～黄熟期は再び間断灌水



2. 本田防除

- 出穂後の病害虫による被害は、収量・品質に非常に大きな影響を与えます。下表を参考に病害虫に合わせた防除をしましょう。

生育ステージ		穂ばらみ	出穂はじめ	一部が出穂	半分が出穂	穂揃い期	9割出穂
病害虫	防除体系			← 5~7日		→	
いもち病	1回目：粒剤 + 2回目：液剤または粉剤	1回目 出穂2~3週間前				2回目	
	液剤または粉剤		1回目			2回目	
カメムシ類	液剤または粉剤					1回目	2回目 7~10日後
	粒剤（剤により適期が異なる）			1回目のみの場合			
	畦畔の草刈り	1回目 出穂2~3週間前		※カメムシがほ場に侵入するため草刈りしない			2回目 再生したイネ科雑草の穂が出る前
ウンカ類	基幹防除		1回目				2回目
稻こうじ病	Zボルドー粉剤DL 等	出穂10~20日前					



↑ 斑点米

※ヘリ防除等では薬剤を混合し、いもち病とカメムシ類とウンカ類に対して同時に防除しています。
 粒剤は稲に吸収されて効果を発揮するため、粉剤や液剤よりも遅効性です。
 8月中旬以降にトビイロウンカが株に1頭でもいた場合は、速やかに粉剤または液剤でウンカのいる株元にしっかり散布しましょう。